

## 巻 頭 言



沖縄県知事 玉城 デニー

# 「海邦交流拠点の形成」を目指して ～世界のウチナーンチュの日について～

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら（皆様、こんにちは）。

沖縄県では、長期的な観点から沖縄の将来像を描いた「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」を実現するための基本施策として、沖縄の持つ地理的・歴史的特性を活かし、経済、学術、文化等の各分野で海外との交流と連携を深め、共に発展していく「世界に開かれた交流と共生の島」を目指しており、世界各地に約 42 万人いると推計されている県系人、県人会等とのウチナーネットワーク（※県系人だけでなくオキナワをキーワードに集う各界各層の関係者を取り込んだネットワーク）の確立、承継、拡大を図っていく「海邦交流拠点」の形成に向けた施策を推進しているところであります。

その代表的な取組として、1990 年の第 1 回大会開催以降、5 年おきに継続して開催している「世界のウチナーンチュ大会」があります。

同大会の海外参加者数は第 1 回大会の約 2,400 名から、第 6 回大会では約 7,400 名と大幅に増加し、その閉会式においては、世界中のウチナーネットワークが今後ますます繁栄していくようにという願いを込めて、毎年 10 月 30 日を「世界のウチナーンチュの日」（※ウチナーンチュとは沖縄の人を意味する方言）とすることを宣言しました。

大会開催を契機に、海外で活躍する「ウチナー民間大使」制度の設立や、各国の県系子弟が集う世界若者ウチナーンチュ大会が開催される等、沖縄と縁のある人々との多層的なつながりを通じてウチナーネットワークが更なる広がりを見せています。

今から 100 年以上前、沖縄移民の父といわれる「當山久三（とうやまきゅうぞう）」氏の「いざゆかん、我らの家は五大州」の言葉に象徴されるように、海外へ雄飛した先人達は幾多の困難を乗り越え、生活の基盤を築いていき、海外に散在するそれぞれの地で沖縄の文化が大切に守られ、子や孫にウチナーンチュとしてのアイデンティティが継承されております。

このように海外と深いつながりを持つ沖縄県には、古くから世界に開かれた島としての伝統があり、県民には世界との架け橋となることを意味する「万国津梁」の精神が脈々と受け継がれてきました。

沖縄県としましては、引き続きウチナーネットワークを基軸とした世界との人的ネットワークを拡大するとともに、様々な分野で多角的な交流を積極的に行い、本県の自立的発展のみならず、我が国及びアジア・太平洋地域の発展に貢献する海邦交流拠点の形成に尽力していきたいと考えております。

今後とも、関係各位の皆様のご支援と御協力をお願い申し上げます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら（よろしく申し上げます）。